

会議録

1 附属機関の名称

犬山市観光戦略会議専門部会（第7回）

2 開催日時

令和3年7月13日（火）午後2時00分から午後4時00分まで

3 開催場所

犬山市役所2階 205会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 構 成 員 服部敦、梅川智也、片岸秀和、奥村好樹、片山義博
(順不同・敬称略)
- (2) 執行機関 永井経済環境部長、新原観光課長、小池観光課課長補佐、
小澤観光課主査補
- (3) 関係課 歴史まちづくり課、産業課（別室にてモニター視聴）

5 議題

- (1) あいさつ
- (2) 報告事項
 - 1. 犬山市観光戦略会議 策定スケジュール (資料1)
 - 2. 犬山市観光戦略体系整理案 (資料2)
- (3) 協議事項
 - 1. 犬山市観光戦略会議本冊案について
 - (1) 構成案（記載する項目）について (資料3)
 - (2) 犬山観光を取り巻く現状と課題について (資料4)
 - (3) キャッチコピーについて (資料5)
 - (4) 目指すべき観光地の姿について (資料6)
 - ・3つの姿について
 - ・観光構造図について
 - (5) 重点プロジェクトについて (資料7)
 - (6) 体系整理（改訂版）について (資料8)

6 傍聴人

0名

【資料】

(資料1) 観光戦略事務スケジュール

(資料2) 観光戦略体系整理について

(資料3) 目次構成案について

(資料4) 観光を取り巻く現状と課題について

(資料5) キャッチコピーの検討について

(資料5別紙) 犬山市内の小中学校の校歌のテキストマイニングによる犬山らしさの分析

(資料6) 目指すべき観光地の姿について

(資料7) 重点プロジェクトについて

(資料8) 観光戦略体系整理改訂版

7 内容

事務局

それでは、定刻となりましたので、本日お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

ただ今より、第7回犬山市観光戦略会議専門部会を始めさせていただきます。

愛知県においては、先日、まん延防止等重点措置が解除されたものの、8月11日まで嚴重警戒宣言ということで、まだまだ厳しい状況が続く中での開催について、ご協力いただきましてありがとうございます。

本日の会議につきましては、お手元の次第に沿って進め、長くても2時間、16時までには終了させていただきたいというふうに考えていますので、お願いします。

それでは、まず最初に服部部会長にご挨拶をお願いしたいと思います。

服部部会長

皆さん、こんにちは。服部でございます。

今年度、今回で3年目に入ることになりまして、当初2年で策定するところを昨年コロナ禍があって、それで1年延びつつも、それに対応した戦略をつくるということで、かなり進化するための議論、昨年度部会の皆様にはご協力いただき続けてまいりました。

今年度は3年目ということで、いよいよ取りまとめの年でございます。かなりタイトなスケジュールになるかと思えますけれども、ご協力いただきまして進めてまいりたいと思えますので、どうぞご協力をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

事務局

ありがとうございます。

ここで、専門部会委員に変更がありましたので、新たに委嘱させていただきました委員をご紹介します。

これまで専門部会委員でありました初山委員につきましては、犬山市観光戦略会議の委員、いわゆる親会議の委員というふうになりましたので、この専門部会の委員としましては、同じく名古屋鉄道株式会社から片岸様にお願いすることとなりました。

片岸様、一言できればお願いしたいと思います。

片岸委員

名古屋鉄道の片岸でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

マーケティング部というセクションにおりまして、ツーリズムですとか、宣伝といった関係を担当しております。

個人的なことで大変恐縮ですが、私としては2015年だったと思いま

すけれども、そこから3年間、今建て替え中になっております名鉄犬山ホテルに勤務をしていたというふうな経験もございますので、こういった部会に参加させていただけるのを大変光栄に思いながら、今日から参加をさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局

ありがとうございました。

なお、本日、事務局に今年度、観光戦略策定支援業務委託の受託者であります株式会社国際開発コンサルタントが参加させていただいております。よろしく願いします。

本日、総数5名全員出席をいただいております。委員の過半数の出席があるということで、会議は成立していることを報告させていただきます。

なお、この会議につきましては公開で開催されます。今回は、この開催をウェブで犬山市役所 501 会議室にてモニター公開というふうになっておりますので、よろしく願いします。

また、傍聴人の方は会議中お静かにお願いいたします。撮影については自席からの撮影を認めます。録音については、個人のメモとしての利用に限り認め、切り取って公開することはやめていただくというふうな扱いになっておりますのでお願いいたします。

また、この会議の内容につきましては、後日、資料と会議録をホームページで公開する予定となっておりますので、あらかじめご了承ください。

それから、会議録につきましては、2人の委員が署名することとなっております。名簿順ということにさせていただいております。前回、靱山委員と片山委員でご署名いただきましたので、今回は梅川委員、それから片岸委員の2名にご署名いただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いします。

それでは、ここで事前に配付させていただいております資料の確認をしたいと思います。

(資料確認)

事務局

不備等はありませんか。

(問題なし)

事務局

なければ、それでは議題に入らせていただきたいと思います。

以降の進行については、会議規則に従い、服部部長にお願いしたいと思います。

ますので、よろしくお願いします。

服部部会長

それでは、議事進行させていただきます。よろしくお願いします。
資料の報告事項と協議事項ということになっておりまして、説明は一体でよろしいでしょうか。

事務局

はい。

服部部会長

最初に報告事項2つご説明いただきまして、さらに協議事項についても一括でご説明いただいて、後で時間を取ってお話をいただければというふうに思いますので、まずは事務局のほうからご説明をお願いいたします。

(事務局説明)

服部部会長

ありがとうございます。
結構内容が多岐にわたっておりますけれども、よろしくお願いします。
かなり早足の説明で大量の資料をご説明いただきましたが、内容についてちょっと確認しておきたいことですか、ご質問がございましたら、まず確認、質問というところからやりたいのですが、いかがでしょうか。

奥村委員

資料2と資料8の関係性がちょっとよく分からないかなあという感じ。バージョンアップしたんですね。8の方は。

事務局

ちょっと分かりづらくて申し訳ありません。
2というのが、前回の会議でさらにご議論いただいたもので、まず一つ結果として出しました。さらに、おっしゃっていただいたとおり、バージョンアップしておりまして、バージョンアップするとだんだんボリュームが増えてきたものですから、資料2の「施策アイデア&そのタネ」は別紙のほうに移動しまして、シンプルに「高めるもの・方向性」まででまとめたものが資料8という形になっております。

最終的に、重点プロジェクトですか、重点施策を体系整理の中に入れるのか、それは体系整理というよりは個別のプロジェクトになりますので、別紙とするかというのはまた皆さんで議論していただければと思いますが、現時点では、資料2でいうと、この右半分というのは別紙に掲載していくような感じで今まとめつつあるというところがございます。ちょっと重点施策が増え過ぎているので、入り切らなくなっているようなところもございます。

奥村委員

重点施策が8ということ。施策アイデア。

事務局

そうですね、施策アイデア。資料7に添付しているこちらが、もともと資料2の右側にあったものでございます。これが、一旦資料2の体系整理から外しまして、個別のシートになっているという状況でございます。資料8は、その分少しすっきりさせようということで、「高めるもの・方向性」の説明を加えさせていただいたというところになります。

服部部会長

資料が相互になったり、横になったりしていますので、分かりにくいところがあるかもしれませんが、確認があればお願いしたいと思います。

今日は幾つか確認しなきゃいけないことがあるのですが、まず資料3を見ていただいて、今後議論していく中身が目次構成案という形で提示されておりますので、この目次構成を埋めていくということで議論していくので、まずこの構成案について確認していただいて、抜けがないとか、この項目は何だとか、そういうのをまず今日確認していくというのが一つ大きな観点になります。

この目次構成案のうち、今日は4番の現状と課題というのが資料として出ていまして、あとキャッチコピー、それから6番の目指すべき観光地の姿、9番の重点プロジェクト、その辺りが資料として出ているということです。

今日は、この構成を見ていただきながら、現状と課題は現状と課題なので、主にキャッチコピーと目指すべき観光地の姿、重点プロジェクトといったところの内容を今日もんでいただくというのがメインの話になるかなあというふうに思っています。

今日はまだ目標設定とか、細かい施策の中身とか、そういうところは出ていませんので、今見ていただいた目次の4、5、6、9、特に5、6、9の辺りの中身をよく見ていただければというのが今日の中身になるかなあというふうに思います。

目次構成について、いきなり見てもなかなか意見が言いにくいかもしれませんが、今後の議論につながっていきますので、今後ページの中身、こんなことを整理していくんだというのをざっと見ていただいて、まずこの目次構成案について、何か疑義、ご質問がございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

梅川委員

10番のコロナからの回復プログラムですけど、これはどちらかというと、今後1、2年、2、3年ぐらいの話になるかと思うんですけども、9と11が多分つながってくると思うんですけども、10はちょっと浮いているよ

うなイメージがありますね。多分 11 は重点プロジェクトをどう P D C A で回していくかという話ですよ。そうすると、時間軸もかなり長く、10 年間の話になるんでしょうけど、この 10 だけがこの 1、2 年の話になってくるというふうに理解すると、この場所でいいのかなと思います。ちょっと落ち着きが悪いというか、今で言う P D C A の後に持っていくとか、何かそういうふうがいいかもしれないです。

それと、あと 11 が観光戦略の P D C A になっているんですけども、以前は推進体制という話になっていて、推進体制ってとても重要だと思うんですけども、これは無くすということなんでしょうか。どうなんですかね、官主導、官なんでしょうか、観光って、やっぱり民が重要になってくるので、どういう体制で犬山観光を進めていくのかというところは結構重要な話だと思うんですね。いきなり P D C A の話になっていいのかなと思ったんですけど。

今のご質問についていかがですか。

服部部会長

事務局

そうですね、コロナからの回復プログラムということで、最初はこの回復プログラムを、例えば全ての目指すべき観光地の姿ですとか、戦略体系、重点プロジェクトに散りばめるような形で書いていくのか、あるいはやはり期間が限定的で、また 10 年の計画の中で、5 年、6 年たったらコロナというのは完全に定着というか、一つ別のものとして考えることができるようになるのかなと考えると、全てにちりばめるよりは個別に期間を絞って、1 年、2 年、3 年の中で回復していくプログラムですね、ターゲットも変わってくるでしょうし、そういったふうにするべきだなと思い、まず項目としては一つ設定することで、混ざり込み過ぎないようにしてみたというところが一つございます。

その中で、位置としては、おっしゃるとおり P D C A の後ろでもいいのかなと思っておりまして、今、絶対この 10 番目じゃないといけないというところはないので、おっしゃるとおり、計画書の連続性という意味では 10 番と 11 番を入れ替えるのもいいかなというふうに思いましたので、また皆様のご意見をいただければなと思っております。

それから、推進体制については、非常に重要なものだなというのは考えておりまして、体系整理の中では、これらの観光戦略を推進していくもの、一番下支えるものとして、図としては一番下に土台のようなものとして表現しております。こちらについても、観光まちづくりの推進体制はこうあるべきで、こうしていきたいというような表現をしていくページというのは絶対に必要だなあと考えておりまして、今、具体的に各項目を見ていくと、11 番はあくまで P D C A なので、Plan Do Check Action になるものですから、それとは別

の推進体制という項目をどこかに入れなければいけないなどは思っております。ちょっと今、この中には確かに項目立てとしてありませんので、もし書けるものであれば、一つ項目立てすべきかなと今ご指摘をいただいて思いました。

ただ、これからどういう推進体制で、DMOも含めて、プレーヤーだとか、そういうものの役割ですね、誰が何をやっていって、どういうまとまりで進めていくのかというのは、正直まだ大枠もない状態なので、どのように取りまとめていくかというのは、非常にこれから検討していかなければいけないと考えております。

梅川委員

みんなで作るとか、みんなのためにという市民目線の話が随分入ってきているので、役割分担として、観光産業だけが観光振興をやるわけじゃなくて、これからはやはり市民によるまちづくりだという位置づけに計画が変わってきているというか、位置づけをさらに市民目線にシフトされているので、そうすると、やはり役割分担が重要になってきますよね。特に市民の方々って、何をやってほしいんだという話も出てくると思うので、その辺はちょっと丁寧につくってあげるといいかなという感じはします。

事務局

ありがとうございます。

服部部会長

今の梅川先生のご意見について、私の理解では、この目次案の8番のところの書き込みがまだ足りないということなんじゃないかと思うんですね。

8番の戦略体系というところに何を書くのかということなんですけど、ちょっと横に資料8のでかいやつを置いていただいて、「高めるもの・方向性」というのが今7つ出ているので、7つの方向性、プラス一番下に推進体制というのが出ています。だから、戦略の方向性として7つ柱があって、プラス推進体制という大きな柱があって、8本柱体制で戦略を書いていくということなんじゃないかと。多分それを8番に書くんだろうというふうに思われるので、その中で推進体制というのをすごく重要なものとして、大きな柱としてそこに書かれているということで、目次として8番が一行で書いてあるので、隠れちゃっているんで、多分目次の段階で少しそこを開いてですね、その中に何が書かれるのということを書いておくと、梅川先生が今おっしゃったようなことに応えるようになるんじゃないかなというふうに思います。

梅川委員

これには入っていますよね。

服部部会長

そうですね。

ということで、そこが多分8番の中身が、7つの方向性と推進体制の中身になるんじゃないかなと思います。

もう一つ、10番と11番の関係ですけど、まず7つの方向性と推進体制という大きな施策の柱があって、その施策の中身があると。その中に、特に重点的なものとして重点プログラムがある。それが9番なので、その次に、ここ向こう三、四年ぐらいのコロナからの回復をどう進めていくかという直近のプログラムがあると。これはいずれも施策の中身なので、PDCAの全部対象になりますよね。だから、施策体系も重点プロジェクトも回復プログラムもPDCAの対象になるということで言えば、PDCAが一番最後に来るんじゃないかなというふうには思います。だから、その辺は分かるように少し整理をしておいたほうがいいかなと思いました。

というふうにちょっと確認していかないと、なかなか皆さんも分からないと思うので、少し確認しながら進んでいければと思いますけれども、目次案を見ていかがでしょうか。結局これに基づいて中身をつくっていきますので、ここは何かあるんだとか、ほかの資料との関係はどうかと。

片山委員、お願いします。

片山委員

ちょっと単純に思ったんですけど、6番の観光構造ってどういう意味か、ちょっと私は理解できないです。

服部部会長

事務局お願いします。

事務局

こちらについては、先ほど資料6を説明させていただいた際に、目指すべき観光地の姿、3つの姿というのをまず文字で表現させていただきました。それを図として可視化するというようなお話をさせていただいて、今、A3の広域から城下町といったようなものが表裏で書かれているんですけど、観光地がどういった資源があって、何と何が連動して、それは市内だけではなく、広域でいうと、例えば犬山市と岐阜県、富山県、三重県、静岡県との関わり合いはどのようなかといったものを、資源を基に対比させて、俯瞰的に捉えながら観光資源というのをマッピングしていくというところで、観光を面的に広く捉えていくと、観光構造として一つ可視化できるのではないかなということで考えています。簡単に言うと、マッピングしたものというのを観光構造図というふうに捉えているというところがございます。

服部部会長

マッピングといっても、現状のマッピングという現況図というのと、あと将

来の姿として、こういう姿にしていきたいという将来構想図というのが両方あり得るので、それを、現況図を踏まえながら将来構想図みたいなもので、少し空間的に地図として分かるように整理するというのが6番みたいなものということですね。

事務局

はい。

服部部会長

そのほか、いかがでしょうか。

あとは、中身として、キャッチフレーズのところと重点プロジェクトのところでかなり具体的な話をしたいと思いますので、この段階で、まずは抽象的ですけど、整理の体系として、こんな感じかというのを確認させていただいて、あとはキャッチフレーズと重点プロジェクトに行きたいなと思いますが、いかがでしょうか。

梅川委員

5と6って、6が先に来て、そういう犬山観光構造図みたいなものが出て、それでキャッチコピー・基本理念が生まれてくるという流れのほうが何かスムーズかなという感じもしますね。

現状と課題の整理があって、いきなりキャッチコピーが出るよりは、目指すべき観光地の姿というこの3つの姿、理想としてはこういう3つの姿を我々は目指すんだというものが出来て、犬山観光のこういった課題があるんだというものがあって、構造的にはこうなっているんだというのを踏まえて、先ほどの犬山三景の話になっていくのが流れとしてはいいのではないのでしょうかね。やってみないとちょっと分からないですけど。

この3つの姿って、高尚な、高次のレベルの話なんですね。サステナビリティ、オリジナリティ、ホスピタリティというのは。それと、7つの高める方向性との関係性がうまく整理できるというのですが、先ほど小池さんも口頭で説明はされたんですけど、それが見える化というか、流れが分かるというんだらうけど、これをやりながら整理していくんじゃないですか。

服部部会長

ビジョン的なところからの施策の方向性みたいなものの落とし込みなので、必ずしも1対1対応にはならないけど、通常その、分かりにくいとマトリックスみたいなを書いて、線で引いて、関係図を示すみたいなのところにつないでいくというのがいろいろあるんですけどね。その辺もちょっと進めながら、分かりにくければ、その辺のつながりをしないといけないかなと。

梅川委員

分かりやすくしないと、市民の方も困るだろうから。

服部部会長 ちょっと資料8と資料3の中身って、前も思ったんですけど、目指すべき姿と「高めるもの・方向性」の間のターゲットから対応のところって、どこに書くんだろうというのがあって、多分それは整理されていなさそうですね。だから、そこの整理をもう一回ちょっと考える必要がありますね。

事務局 はい、了解しました。

服部部会長 そこは今言ったつなぎの話かもしれないので、その辺の書くべき場所が見えないので、ちょっとシミュレーションして、何が一番書きやすいんだろうかということを考える必要がある。

梅川委員 ここは、これが入ってくると、少しここのこれとこれとの関係性が分かりにくくなるといけない。いや、これすごく分かりやすいですよ。ターゲットがあって。何をターゲットにするかと、これは非常に分かりやすいんだけど、こことここの関係性がちょっと分からない。

 何をターゲットにしているかと、ここも分かりやすいよね。しかもこれ、下のほうに青字の分割入れられているじゃないですか。これは特にコロナ禍を想定して、コロナということがあって多分これを入れられていると思うんだけど、これは分かりやすくしていいと思うんですけどね。どこに入れていくかね。

服部部会長 やっぱり3つの目指すべき姿があって、その姿を想定したときに、ターゲットごとに評価していくんですよ。現状は、ここはいいけど、ここが足りないみたいな評価をしていて、それが施策の方向性に落ちていっているんで、目指すべき姿から、ターゲット分析があって、施策の方向性に落ちているというその流れを埋めるように書かないといけないということなんですね。

 多分そういうふうです。だから、その間を書くところが今立てていないので、そこが飛んでいるように見えるんです。大変面倒くさいところですけども、また少し頑張ってください。

事務局 頑張って検討してまいります。ありがとうございます。

服部部会長 ちょっとここで止まっているとなかなか苦しいので、少し具体的などころに行ってから、また気になるところがありましたら、体系整理に戻ってきたいと思います。

 資料5と資料7のほうに行きたいと思いますが、資料5のほうは、結構去年

議論したんだね。犬山らしさって何だというふうに議論しまして、その中で、川とか水とかという水に関わる風景みたいなものがやっぱり犬山の大きな資源じゃないかなあという議論をしていました。

もともとお城というのは当然ありますので、そういう犬山らしさをどう表現するんだろうかということで、これまでの議論をちょっとえいやという感じで、私のほうで原案としてキャッチコピーみたいなものを書いてみた、気分転換に書いてみた。その前には、3枚目にあるようなキーワードをいっぱい書いてみて、何かいろんな言葉がありそうだなと思いながら、でも何となく観光という形で考えると、やっぱり犬山らしさというのは一つの風景で捉えるというふうなものがあると。日本ライン観光から始まって、犬山というところでは、原点に戻りつつ、現代のSDGsとか、そういうものをつなげていきつつ、水と緑とお城というのがつながっていくというので犬山らしさが表現できるかなというので、取りあえずこういう言葉を書いてみた。

基本理念のところは、さっきの3つの望ましい姿を一つの言葉で表しているだけです。サステナビリティとオリジナリティ、ホスピタリティがあって、基本理念の中に一行で書いてあるということですね。犬山らしさがオリジナリティですね。ずっといたくなるがサステナビリティで、みんなでつくる・みんなのための観光というのがホスピタリティということなので、基本理念から3つの姿に分かれていくのか、3つの姿を受けて基本理念を一つにまとめるかというのは、ちょっとやり方はいろいろあり得るんですけども、そんなふうに取りあえずまとめてみたというのがキャッチコピー、基本理念なので、こんなものをメインに据えながら、施策をブレイクダウンしていくみたいな戦略でいいかどうかというのを今日まずお聞きして、これで親委員会に次回かけていくという形になりますので、ちょっと今日はこれについて議論したいと思うんですが、キャッチコピー、基本理念についてご意見、ご感想ありましたらお願いします。

いかがでしょうか。

片岸委員は、去年ご参加されていないので、初めて見て、新鮮な目で見られたと思うんですけど、いかがでしょうか。

片岸委員

そうですね。水ということですので、木曽川の流れというふうなところのイメージかな。私、もともと川のほとりのホテルに勤めていましたので、名古屋から30分足らずで犬山へ来て、木曽川の、ちょっとダムがあるところもありますけれども、その辺りは違うかと思うんですけども、ゆったりした木曽川の流れを見ると、やっぱり時間の流れが、せわしない日常からちょっと非日常に來られたなというふうな感じのイメージがすごく強かったので、水というの

は本当にキーワードとしていいと思いますし、いろいろ昔のお話を伺ってみても、木曾川に夏場はスイカを冷やしておいて、泳いだりなんかして、それでみんなでスイカを割って食べたとか、一宮の辺りのお大臣がお座敷ということで遊びに来て、舟遊びみたいなことをやられたりですとか、そういった川の恵みが、あそこを中心として楽しみがあったというふうなイメージもいろいろ伺いましたし、あとやっぱり流れのゆったりさと時間の流れは連動しているような気がするので、観光のキャッチコピーとしては、水というのはいいのかなというふうには思います。

服部部会長

片山委員、いかがでしょうか。

片山委員

僕はもうずっと出ていますので、木曾川とか、水という、ずっと会議に出ていましたので、これは異論ないところです。

先生がキャッチフレーズのためのキーワードというのをたくさん上げていただいていた、具体的にキャッチフレーズに「犬山」という言葉も僕は入れたほうがいいと思うんですけど、抽象的な城下町とか、街並みといてもどこにでもあることもんですから、僕としては、キャッチフレーズの中に固有名詞をちゃんと入れたいという思いがあります。

あと、犬山遊園駅という駅もあるんですけど、僕、遊園って何ですかとよく聞かれます。遊園地ですかとか、駅は僕らは分かりますけど、こういう曖昧な部分じゃなくて、がつんと犬山の水を連想するような固有名詞、木曾川といったら元も子もないんですけど、具体的な文言でいきたい。

服部部会長

今のキャッチフレーズは犬山三景ですね。

奥村委員、いかがでしょうか。

奥村委員

これは前からのお話もありまして、ここに出てはいますが、改めて基本理念という表現ですけど、僕らは企業さんたちと話をするんですけど、いろんな話をする中で、一番最初に聞くのは、企業さんとしての企業理念は何ですかと、そこから始めるんです。それと社訓ですかね。社長さんの考え、それもぶれませんか。それを一個決めたら、それを貫かないと企業はぶれちゃうので、そういうところを聞いて、成功・失敗している企業さん、よく見えていますけど。これは基本理念になりました。これはもう変えないという心構えですよ。

キャッチコピーについては、企業ではありません。スローガンをつくる場所もありますけれども、全部この基本理念に従って事業を進められます。

この中で今見ていましたら、「犬山らしさを磨き、ずっといたくなる、みんな

なでつくる・みんなのための観光」、それぞれこれらの中に反映されているかなと思って見ていました。

これに沿って、この事業が10年計画を立てると。犬山らしさを磨く、磨いていこうという事業がどれかなあと。ずっといたくなる、これは観光客がずっといたくなるも含めているし、住民もある。みんなでつくる、観光地をつくるとか、市の中を全部住みやすくするとか、そういった広い意味だと思っている。観光だけで該当支援があるんで出ていましたけれども、ちょっと大きな話になっちゃったかも分かんんですけど、そういう思いで、ちょっと前後しちゃうのか分かんんですけど、そういう思いで見ていましたということです。

今、会議所がいろんな事業所の方に、会頭がメッセージという表現で事業所のために応援メッセージを発信しているんですけど、今回も、先だって昨日、一昨日の会議のときにも、今、物の消費から事の消費になってきたと。事です。物じゃありませんよ。心に残る事の消費を皆さん心がけて、これからつくってもらえれば、事の消費から今度また新しいものが生まれると。そこで物の消費が発達して、また物が売れると。ということで、先の消費者を見込んでぜひ取り組んでくださいという表現をされたんです。

今、ここの基本理念、コトとかモノ、コトが多いなと思って、今後のことを見ておるなというふうに見ていましたので、合っているかなと思っています。

もう一個、その話のついでで調べていましたら、そのコトの次に、トキの消費が今後は栄えてくるだろうと。トキの消費を受けて消費者は動いていくというふうには時代を読んでいる記事も出ていました。それが本当かどうか分かんんですけど、その後にはエモ消費とか載っていました。感激というか、感情だけで求める消費者が増えると。そんなことをちょっと思っていました。

服部部会長

基本理念は、ある種の内部的なものというか、市役所もしくは地域の企業、団体、そして市民、犬山市のプレーヤーがどういう方向でやるかという一つの方向性で、キャッチコピーというのはちょっと対外的な観光というものをどうやって生み出していくのか、何が売り物なのかというのを表現するということなのかもしれないですね。

梅川委員、いかがでしょうか。

梅川委員

キャッチコピーと基本理念と目指すべき姿というこの辺の関係性が、もう少し整理が必要なのかなと思いました。多分広告代理店的にいうと、今キャッチコピーと書かれている「犬山三景 水景・城景・緑景」は、多分コンセプトと彼らは言うと思います。基本理念のところがまさにキャッチコピー、インナーキャッチコピーということだと。

そうすると、この3つの姿、これはひょっとすると3つの基本理念なのかなと思ったんですね。サステナビリティ、オリジナリティ、ホスピタリティという、これこそが基本理念なのかなと思いました。言葉の捉え方って皆さん違うので、私的には、こういう3つの基本理念があって、それで犬山としてはこういうコンセプトを使って、それを実現するためのキャッチコピーとしては、犬山らしさを磨き、ずっといたくなる、このフレーズが出てくるということなのかなと理解したんですけれども。

この犬山三景のところで、細かな話になるんですけど、水景・城景・緑景、順番が気になったというか、お城が最後かなという感じもしたんですよ。自然、水景・緑景があって、人が造った文化遺産、お城があるという感じになるかなとちょっと考えたんですけど、それから、今の犬山らしさを磨きというところでちょっと表現したいなと思ったのは、多分まちをよくするため、まち磨きをみんなで楽しもうと、観光まちづくりをみんなで楽しもうよ。今までは、名鉄さんをはじめとする企業さんが主体になってきたんですけど、これからは市民も巻き込みながら、まちづくりを楽しみながら新しいコンテンツをつくっていくんだというような市民と一緒に、市民が楽しみながら、まち磨きをするんだというイメージが何か言葉のどこかに出てくるといいかなと思ったんですけど、ちょっと具体的なアイデアがなくて申し訳ないんですが、そんな印象を受けました。

服部部会長

まち磨きというのが、本則はどんなものにするか。

梅川委員

やはり、楽しもうということですよ。まちがよくなっていくのを見ていくのって、楽しいことじゃないかなと思っていて、それが結果、観光にもつながっていき、いろんな方に来てもらって、そこで文化が生まれていくという流れだと思うんです。

服部部会長

そこら辺が、みんなで作る・みんなのための観光と出てきてはいるんですけど、どこで書くかなあというふうに。

水景・城景・緑景が、この順番になっているのは一応理由があるんですよ。水景が別なんですよ。犬山全体を見ると、お城は一部の地域にしかないの、お城がある地域と緑がメインの地域というのがあるんですね。だから、要は城下町エリアと里山エリアというふうに主に考えて、2つのコンテンツがあって、それを水がベースとしてつないでいるというか、水をベースにお城と緑があるみたいな、この下に書いてあるように、水が育む城下町と緑の自然というのがそういうことなんですけど、そういうふうに考えると、お城が最後に来る

と、何か城下町の話だけになりそうな感じがしたので、お城が真ん中にあると。一応そういうことを考えているということです。その辺もちょっといろいろ議論をしながら、言葉はいろんな人のいろんなイメージがあるので。

梅川委員

でも、そういう説明をきちっと図でも理解していただけるといいと思います。

服部部会長

何か図にして描くと分かりやすいですね。水があって、お城と緑があるという図があるといいかなあと。何かあれですよ、ロゴマークみたいなのがいいですよ。色で表せるとして、水色があって、お城は白帝城だから白だと。緑があると。水の上に白と緑があるとか、そういうロゴマークみたいなのがあってもいいですよ。

多分、そういう整理をしていかないと、なかなかイメージが伝わらない。そこに、先生が言われたような、人が造っているみたいなそういう図があるとか、何かそういうイメージをつくる時には、そういう絵的なもので整理すると伝わるかもしれないです。だんだん高度な話をして恐縮ですが。

奥村委員

でも、この先生が分析された、こういうのはすごいですよね。やっぱり科学的に、客観的な木曾川というのはすぐ出てくるんだけど、校歌にこれだけの水という言葉が出てくるんだという、あふれたテーマに関してはすごいですね。

服部部会長

9校のうち8校で水というのはやっぱり出ていて、面白いのは、やっぱりお城、歴史がメインのところと、緑がメインのところと分かれるんです。この図を見ていただくと分かるんですけど、ここがそうなんです。水は全校に出てくるんですけど、お城は城下町系のところに出ていて、それ以外のところに山とか、平野とか、そういう緑系が出てくる。だから、そういう意味で、やっぱり城下町エリアと里山エリアに分かれていて、それぞれの資源を大事にしているんですけど、水は共通しているんだなみたいなところがちょっと分かったなという意味でこういう。校歌というのはすごいですね。地域の人の郷土に対する見方みたいなものがやっぱり表れているでしょうから、そういう意味では、分析対象としては面白かったですね。

では、キャッチコピーについて一通り議論して、大きな方向性としてはご了解いただいたかなと思いますので、あとは言葉のイメージみたいなものとか、親委員会のほうからもいろいろ出るでしょうから、やっていきたいと思います。

あと、重点プロジェクトで、今回7つ重点プロジェクトというのが立てていまして、資料8の高めるもの・方向性というのが、何となく分野別施策みたいな感じで、施策の柱としてはこうなっているんですけど、ここを横につないでパッケージ化していくような形でプロジェクトを幾つか立てておいたほうがいいんじゃないかなというので、重点プロジェクトを7つぐらい立ててみると。やっぱりこれはプロジェクトベースで出していかないと、具体的な姿が見えてこないの、地勢、測地的にというか、場所をイメージした形で、木曾川河畔とか、栗栖なんかの里山整備だとか、そういう具体的な場所をイメージしたような形で具体的なプロジェクトを浮かべていくというのも重要なことなので、重点プロジェクトがあるということになっています。

今回、この7つのプロジェクトを仮に立てて見ているんですけども、この7つでいいのか、ほかにはないのか。この7つについての表現として、もしくはこんなものも盛り込んだほうがいいんじゃないのか、7つの中のブラッシュアップとか、それ以外にこういうのがあるんじゃないとか、多過ぎるから削ったほうがいいんじゃないとか、その辺を含めて、皆様のご意見、残り時間を使って伺いたいと思います。

いかがですか。

梅川委員

このやり方としては、横軸、縦軸の考え方は一番分かりやすいというか、この横軸に出ている、さっき62個あるとおっしゃいましたよね。これって、市が全部やるわけじゃないので、さっきの話じゃないですけども、誰がやるのかという、それはまた主体論の話、推進主体の中で整理をすればいいのかもしれませんが、この62が本当にこれだけでいいのかなというのを精査する必要がありますね。

それと、それらを束ねて、重点プロジェクトを7つ提案されているというやり方はいいと思います。だけど、この重点プロジェクトが多くなると、だんだんと、こっちなのか、あっちなのか分からなくなってきて、注意しなければいけないんです。重点プロジェクトは7つぐらいがいいかなと思いますけど。何か抜けはありませんかね。

6のクロスオーバー資源開発っていうところがあまり具体的にイメージできなかったというのがありますが、あとはとってもリーズナブルな重点プロジェクトに仕上がっているなという感じはしているので、もう少しそれぞれを詰めていけばいいのかなと思います。

特に重点プロジェクト4、クリエイティブクラスの話がされていますけど、これは結構重要な話だなと思っております。城下町に新しい血を注ぎ込むというんですか、まさにクリエイティブクラスの方々が新しいことをやるというの

は、非常に町なかの再生には重要だなとっていて。

すみません、意見と言うより何か感想のようになってしまいました。

服部部会長

1から7のうち、先生がおっしゃる6を除いて、割と即時性があるものなんです。6だけが、いわゆる推進体制整備の具体的なプロジェクトとして、分野横断的な商品開発というのを重点的に支援することでもやったらどうかみたいなことが書いてある。そういう理解でいいかな。

梅川委員

地域DMOが担当する観光まちづくり法人をつくる。

服部部会長

DMOみたいなのをつくって、じゃあ具体的に何をするんだと言われたときに、こういうことをしますみたいなのを何か一つ書いてあったほうがいいんだろうな。

梅川委員

そうすると、やっぱり6が成立するためには、62の中に関係するものがきちんと入っていて、それを幾つか束ねると6になるみたいな構造にならなければいけないですね。62の中で、もう少しこの6に関係することを入れたほうがいいと思います。

服部部会長

通常よくある仕組みがここに書いてありますので、それを市が書けるかどうかだと思いますけど。人材育成と商品開発とか、情報発信とか、拠点整理とか、大体そういうのが出てくるはずなので、そのどこを具体的にやる気があるのか、やるのかという、ちょっと覚悟を持てるところを書く。その辺は覚悟を十分持っていないので、少しこれを補えるといいです。

梅川委員

最終的には、そこを明確にされたほうが、実現ということを考えるといいですよ。誰がやるのかというところが決まっていな計画って、絵に描いた餅になってしまいますので、誰がこのプロジェクトを責任持って進めるのかというところまでは、ちょっとやっぱりお示ししたいですよ。

服部部会長

委員の皆さん、いかがでしょうか。重点プロジェクトについて。今これから具体的にやっというので何を書くかという。

奥村委員、いかがでしょうか。

奥村委員

重点プロジェクト2「日本ライン再発見ルート」、ちょっと思ったんですけど、栗栖緑地まで遊歩道の整備、これは非常に会議所も現在仕事したりしてい

ますので、ぜひ造ってほしいと。栗栖地域に歩いていけるように難しいんですけど、行きたいなというのはあるんですけど。と思うのは、遊歩道を木曾川の犬山側に造っても、対岸を見ちゃうんですね。惜しいなあという。対岸は住宅街なんだよね。今ここで言ってもどうしようもないと思うんですけど。

ですから、例えば県をまたいだ組織ですけど、あちら側に遊歩道を造って、こちら側を見てもらうといった呼びかけなんかもいいんじゃないかというのはいつも思いますね。対岸から見れば、この日本ラインで、当時の大正2年の景観がまだ残っていると思いますので、惜しいなあと。日本ラインという名前をずっと後世に残すんだとすると、それも惜しいなあと思って。すみません、意見を言いました。

服部部会長

川との連携部分とか。

奥村委員

なかったでしたっけ。そういう歩道。あったっけ、あの団地の下にそういう遊歩道って。

事務局

今おっしゃられているのは、昔の工場があったところが住宅開発されているところだと思いますが、現地に行くと川沿いに遊歩道があります。400mか500mぐらい、ずっとありますので、それはそれは非常に景観がよくて、本当にいい風景のところに住んでいらっしゃるな、皆さんという感じにはなっています。

奥村委員

ここもちょっと対岸から、県が違っても、対岸から見られるのは日本ラインが見えますよという。

服部部会長

ツヅキボウの団地、川沿いに遊歩道あったっけ。

事務局

あります。今新しくできる、ツヅキボウだったところですよ。あそこあります。遊歩道があって、すみません、ちょっと余談になっちゃうんですけど、遊歩道の街路灯じゃないですけど、照明がすごく無機質に規則的に光っているので、鶺鴒をやるときに非常に目についちゃうというのがあって、ごめんなさい、ただの愚痴になってしまいましたが、何とかその辺、何を思ったかという、各務原さんと我々との都市整備部局で景観に対する協議会を持っているんですが、もう少し踏み込んで、お互いの日本ラインというものをさらによくするための協議だとか、改善というのは必要だなというのは考えていまして、そういった部分では、今、奥村委員が言っていたような各務原との景観というのを中心に据えた連携というのにも必要だなというふうには考えており

ます。

服部部会長

大事な景観ですのでね。

お城のすぐ城下のところも、こっちの側の遊歩道も必ずしも連動していないので、あそこが連動して回遊性を持ったらすごく気持ちいいですよ。なかなか4キロぐらいありますから、あれはなかなか整備したいですよ。

片山委員、いかがですか。

片山委員

何度もSWOT分析でも、名鉄系のテーマパークが広域に点在し、城下町が広域に点在している点を面にとという話も出てきていると思うんですけど、ここでいう6ページ、「クロスオーバー資源開発」とある、まさに観光資源が点在して回遊し切れていないのが犬山の観光の悩みの種、これも間違いないと思うんですけど、その体験コンテンツとか、開発はもちろんなんですけど、ここに交通での広域回遊というのちょっと切り込んで入れたほうが、ここで入れていかないと、いつまでたっても交通回遊、バスなのか、市のシャトルバスなのか分かりませんが、名鉄さんの力を借りて、そういうことも切り込んだほうがいいと思います。

服部部会長

回遊性があったら面白いということですね。二次交通手段と。

片山委員

そういうことです。

服部部会長

二次交通は前からの流れで、何かそこをなかなか施策として整理し切れていないかと思しますので、重点プロジェクトとして書くのか、さっきの62のほうでうまく整理するのかとかというのはあるとしても、交通についての整理は必要ですよ。

事務局

今、実はこの62の中に、上から3つ目の「景観・空間の整備（ハード施策）」の一番下に、課題として認識はしております、ひっそりと二次交通の課題改善と充実というのはありますが、片山委員おっしゃっていただいたとおり、なかなかこれだというのがまだない状態なので、自信を持ってこの黄色の色をつけるみたいにはなっていない状態です。

ただ一方で、観光ガイドタクシーなど観光協会さんがやっていたいたりとか、名古屋鉄道さんが今Ma a Sを見据えた二次交通の検討、あるいは実証というの少し聞こえてきている部分もございますので、そういったもの、人任せばかりではいかんですけど、いろんな事業者さんと連携して解決して

いきたいなど。二次交通はずっと課題ですので、検討していきたいなどというの
はあります。ただ、今ちょっとこのぐらいの扱いでしか書けていないという状
態でございます。

服部部会長

片岸委員、いかがでしょうか。

片岸委員

ちょっと気になったのは、重点プロジェクトの1番なんですけれども、遊園
ルネサンスということで、先ほどちょっと片岸委員のほうからもありましたけ
れども、遊園という表現ですね。もともと犬山ホテルがあったところに遊園地
があって、それにちなんで犬山遊園という駅名がついて、変な話、駅名だけ残
っているような形で、名と実がばらばらというか、そういう今状況になってい
るものですから、その中で遊園という言葉をここで取り上げられるのは、ちょ
っと私たちは違和感を感じる場所があります。

ただ、あそこの犬山遊園の駅から、お城から降りてくる、犬山ホテルがあっ
たあの辺りがやっぱり寂しいことは間違いないと思います。犬山駅から犬山
遊園駅までぐるっと、せめてそこぐらいは歩いて回遊ができるところかなあと
は思っているんで、あそこの川沿いの、川の整備というのは必要だと思うんで
すけど、遊園という、そちらの名だけ、そこにちょっと違和感を感じるのがあ
ります。

服部部会長

そこもまさに狙いとして、そう書いているところもあるんですけど、やっぱ
り犬山市民でももう分からなくなっているんですよ。あそこが遊園だったの
がね。まさに犬山ホテルがあったところが犬山遊園という遊園地で、その遊
園地の中にホテルが建てられて、それが犬山ホテルとして残ったという経緯が
あります。その遊園地をベースにしてモンキーパークができているという。も
ともとそこにあった遊園地があっちに移転する形でモンキーパークができた
というのが名鉄観光の歴史だと思いますので、そういう意味で、あそこがまさ
に犬山の大観光地としての発祥の地であったという記憶をもう一回それを再
発見して、新しい文脈の中で本当の遊園に、だからルネサンスなんですよね。
もう一回そこを再発見して、新しい時代に新しい価値を生み出していこうとい
うのがルネサンスなので、遊園としての価値を再発見して、再整備をして、新
しい遊園をつくっていこうと。

少しやっぱりそういう歴史性があるところというのを重視しながら、現代に
巻き戻して、それを未来につなげるというのが一つのまちづくりの常套手段な
ので、そういう意味で、歴史をちょっと掘り起こして味つけするというやり方
も一つあるのかなというのが遊園ルネサンスという言葉に現れているという

ことかなというふうに感じています。

意外と、そうやって遊園は本当にそういう意味だったというのを言うと、犬山市民にはある種の新鮮な衝撃が走る可能性もあるかなというふうに思います。ちょっとレトロっぽくて、いいかもしれないという気もしないでもないですけど。それで、あそこにホテルがたくさん建って、それが今こうなっちゃっているというのはやっぱり問題だよなとって、もう一回市民の力で新しい時代の遊園をつくりましょうみたいな話になるといいなあと。犬山遊園駅が残っている限りはいいですけど、あれがなくなったり、名前が変えられちゃうと、可能性がなくなっちゃうということですね。

梅川委員 どのぐらいまで表現しますかね、この重点プロジェクトって。例えば、絵づらみたいなものも出てくるかどうか。

服部部会長 絵づらは欲しいですね。

事務局 欲しいですね。

梅川委員 イメージが、ああ、あそこがこうなるのかという、ある意味、市民の方々の夢というか、20年を見通して10年間ですね。

事務局 はい、そうです。

梅川委員 こうしたいという夢でもいいんでしょうけど、何かイメージがあるとやる気が出る。

服部部会長 いろんなレベルがあって、一番強力なのは、ああそうかということなんだろうし、それがうまく出てこないと、その前段の概念図みたいなものがあるって、それがこうなると、ビジュアルな事例みたいなやつを載せるみたいなパターンがあるので、そのどれかを考えながら、少しビジュアルがあったほうがやっぱりいいですね。

梅川委員 文字だけだとね、やっぱり。

だから、この重点プロジェクト1から7までありますけど、同じレベルでつくる必要はなくて、この重点プロジェクトの中でも、やっぱり最重点みたいなものが多分あると思うんです。そういうのはイメージが分かりやすくしてあげるといいですね。

面白いこういうチャレンジする重点施策をどこまで書き込むか。レベルが違うものが随分、すごく具体的なものと、それから中身があまりはっきりしないものとありますよね。既存の宿泊施設の充実、具体的にじゃあ何やるのと言われてたときにね。

服部部会長

整理するときに、さっき梅川先生がおっしゃった誰がやるのというところをどこまで書けるかというのはすごい大事なことですよね。役所の中でも、やっぱり担当課まではっきりさせるとか、場合によっては分野間、担当課を超えた幾つかの連携でやるとか、そういうことをはっきり書き込む。ハードル高いけど、それが書けると、すごくやりやすくなるというのもあるので、役所の中でもそうだし、あと役所の外も、役所ではやらないけど、これは観光協会がやるかもしれない、商工会議所がやるかもしれない、市民団体がやるかもしれない、市民がやるかもしれないというので、やっぱりやる主体みたいなところを少し明らかにして、それはそれぞれの主体に期待することみたいな感じで整理をしておくという感じになると思うので、その辺り誰がやるんだということをはっきりさせながら書くというのはすごく大事なことだと思うんですね。

梅川委員

そこがはっきりしないからなんですよ、物事が進まないのは。

服部部会長

計画の主語を書かないと、そういうふうですよ。大体、主語を書かない計画というのはそうなる。

梅川委員

庁内調整会議というのを何回かやっていらっしゃるので、その中で、ここは我々がやりますなんて言いづらいところがあるかもしれないけど、そこをちょっと頑張ってください。責任の所在みたいなのがあると、ぐっと進むんじゃないかなという気がします。いつもそこをあやふやにして終わらせてしまうことが課題かなあとと思います。

服部部会長

ありがとうございました。

一通り議論をしてみました。ちょっと全体を振り返って、今日の資料について少し言っておきたいこと、今日の資料に限らず、言っておくことがありましたらお願いしたいと思います。残り時間も少なくなりましたので、お願いしたいと思います。

梅川委員

口火を切らせていただきます。今回のビジョン、戦略の新規軸、新しさは何なのかなあというのをつつらつつら考えています。つまり、これからの犬山観光に

とって、このビジョンで何を新しくしようとしているのかということですね。

一つは、計画策定1年遅らせて、このコロナによって世の中の何が変わるのかというのを見極めてやろうということでしたよね。

そうすると、例えばリスクマネジメントみたいなものが入ってきているとか、それから旅行者の心理や行動の変化というのも踏まえない。例えば自然志向、例えば名古屋の町なかでごちゃごちゃやるよりも、ちょっと離れて犬山に来て何かやる、そうした自然志向みたいなものが強くなってきています。また分散志向、密にならなくて距離を取ろうというような動きもあるし、それから近場志向ですかね。星野さんなんかはマイクロツーリズムという言い方をしていますけど、改めてやっぱり国内需要の大きさというのが分かったと思うんですね。そりゃあそうですよね、人全体の観光消費27兆のうち16兆、6割が日本人の宿泊消費だったわけですから。インバウンドがいなくなっちはじめてやっぱり日本人、しかも近場客が重要だったというのが分かりました。それから少しゆっくりしようという滞在志向みたいなものも、このコロナによって出てきているのかなあというのを感じます。それがワーケーションだとか、ブリージャーなどにつながっていくと思うんですけど。そういう世の中の流れというか、旅行者の変化をしっかりと踏まえた計画になっていますというのが一つかなと。

それからもう一つは、それに伴って犬山市が提供するコンテンツも変わっていく必要がありますよね。具体的にいうと、単に見るだけとか、町なかを歩くだけではなくて、プラスアルファというか、付加価値を高めるといふか、。つまり体験だとか、滞在だとか、そういうのを意識して、少し付加価値の高いサービスを提供しますというコンテンツをバージョンアップしますというのが2つ目なのかなあ。

3つ目は、観光振興を担う主体の多様性というか、今までは観光産業、企業を中心にやってきたんだけど、ものすごく市民の方向に寄せましたよね。まちづくりというのを重視して、市民の皆さんにも参加してもらいながら、まち磨きをし、いいまちができていくことによって、また新しいマーケットが開けていくというような。要は市民参加、観光まちづくりみたいなものがすごくこの計画には入ってきていますね。

大きくはその3つぐらいの新規軸が打ち出されたのかなあと私なりに理解しました。実際、服部先生だとか、市の皆さん方が、今回の戦略の中で新たに打ち出そうとしたものというのは、そんな理解でいいのかなとちょっと確認したかったんですね。

事務局

ありがとうございます。

そのとおりですということなんですけど、本当にありがとうございます。

やっぱりコロナで1年、どうしていいんだろうかと。本当にちょうど1年前、どうなっちゃうんだろうというので不安で不安でしょうがなかったです。その中で計画もつけれないとなり、専門部会は辛うじて開催して、いろんなご意見をいただきました。

その中で、やっぱりまず前提となるものとして、すごく身にしみて思ったのは、この専門部会の会議の中でもそうなんですけど、私たちは一体何者なんだというのをもう一回ちゃんと考える機会を得ることができました。私たちとは、犬山とは一体どういう存在なんだろうという、それは、私は犬山生まれの犬山育ちで、主観的に実感として犬山というのは捉えられますが、客観的に見たときに、じゃあどうなんだとか、そして観光という分野で犬山はどういう立ち位置にいるのか。名古屋に対して犬山、京都に対して犬山、金沢に対して犬山とか、そういったものも考えながら、犬山らしさというのをもう一回考えることができました。

それが根底にあって、コンテンツ磨きだとか、いろんな重点プロジェクトというのをもう一回服部先生のご指導の下、捉えることができつつあるというところがまず1点です。

もう一点は、やっぱり推進体制がものすごい大事だなというところで、先ほども目次に推進体制ないじゃんというお話で、ああ、確かにそうだったんですけど、よくよく考えると体系整理に説明をしていくというところで、そうだなと思いついたんですけど、進めていくのにちゃんとした推進体制がないと、もう一回危機な状況が起きたり、ウイルスではないにしろ、何か災害だとか、別の要因で、経済的な要因だとかで危機が訪れたときに、観光というのはあっという間に消し飛んでしまう。特に市役所の中なんか身にしみたんですけど、コロナで一番最初に予算削減されたのは我々の部署なんです。本当に一番要らない子みたいになってしまって、やっぱりちゃんとした推進体制とか、マネタイズも含めてですけど、そういったものがないと、これはいけないなというところも身にしみました。ですので、この体系整理の中の上の帯と下の帯というのが本当に大事だなというふうに今感じています。

そうした中で、今、梅川先生に言っていたような、3密を中心とした新しいニューノーマルの観光というのを考える。それから、コンテンツをバージョンアップする。それから、いろんな人に参画してもらおうというのは、この2つの犬山らしさという言葉とまちづくり推進体制というのをベースに、今言っていた3つというのは全て成り立っていくべきだし、常にこういった姿勢で進めていかなきゃいけないなというのは今考えています。

なので、ちょっと話が長くなってしまったんですけど、先生が言っていた

いたことは、本当に今我々が考えていることとイコールになっていまして、またそれをもうちょっと、今何かあっち行ったりこっち行ったりしちゃっているんで、計画の資料が。もうちょっと整理して、分かりやすいものに、伝わるものにしていかなければいけないなと感じました。

事務局

今、梅川先生の市としての考え方だということで、今、小池の言うとおりでありますが、私も観光をずうっとこれで6年やってきまして、じゃあ何のために今観光をやっているんだろうということをいろいろ考えると、確かに人を呼ばってきて、そこで市が潤えばいいとは思んですけど、じゃあ、そこにその人たちの生活があったりだとか、いろんなところがあって、そこをきちんと考えた観光を今やってきたのかということを考えていくと、そこがちょっとやれてきていなかったのかなという感じが最近よく思うんですね。

やはり城下町がこれだけ活性化して、人がいっぱい来るようになってとなると、やっぱり課題としてはごみ問題だとか、車の問題だとか、当然出てくるので、じゃあ本当に呼ぶだけ呼ばればいいのかというわけでもないなというのは本当に改めて感じたところで、今後、来ているし、住んでいるしというところを求めていく、計画を策定していく中で、そういったところも少しずつ求めていけるといいかなということで、今回市民参加型だとか、そういったところについては、きちんともう一遍行政としても見ていかなきゃいけないというふうに感じています。

梅川委員

市民の理解というのが重要ですよ。どうせ役所がつくった計画でしょうと市民に思われてしまうと多分駄目なんですよ。だから、そこをどうやって巻き込んでいくかという、それは策定した後の話かもしれませんが、そこはすごく重要ですよ。そうすると市民の方々の観光に対する目線も変わってくるはずなんですよ。今までは、市民なんて観光関係ないでしょうというようなことだったと思うのですが、そうではなくて、一緒につくっていく、待ち磨きをしていく、一緒に観光まちづくりをやっていくというような、いわゆる「協働」というスタンスが重要ではないかなと思うんですけどね。

服部部会長

結構あれですよ。まちづくり会議をどうやってコロナの状況の中で。

事務局

そうなんです。お会いする方には、必ず今年度はやりますと言ってしまっているんですけども。

服部部会長

なかなかやりにくいものかもしれないけど、リモートも含めて何らかやらな

いと駄目ですよ。

事務局

駄目ですね。

服部部会長

これは、本当にその後、戦略をつくった後を考える、今、先生がおっしゃったような、それを市民にどう伝えるか。市民に伝わるような内容になっているか、言い方になっているのか、そういう検証はしながらやっていかないと。やっぱり棚に上がっちゃう可能性がありますので、そこはやっぱりプロセスとしてもう一回考えていく必要がありますね。

事務局

はい。

服部部会長

先生がおっしゃったことの中で、結局私も非常に短期で1年の中で、やっぱりコロナの影響というのは、ほかの施策もそうなんですけど、本当に大事なものは大事だったんだというのを確認する契機になったのかなと。結局大事なものは大事だよねということなんじゃないかなあと。それは薄々感じていたけど、何かちょっと浮ついていて、大事なものをおろそかにしてきたんだけど、結局大事なものは大事だったと、当たり前前に気づくというのがコロナの一番大きなところなので、そこが本当に市民のためのところだし、犬山らしさというところではないかなという感じがする。コロナがあったからこそ、やっぱりそういうのも大事だということを、恥ずかしげもなく言えるようなところじゃないかな。そこが大きなところじゃないかなあと。

ありがとうございます。時間もだんだんなくなってまいりましたが、委員の皆さん、いかがでしょうか。

4時までやらなきゃいけないということはないので。何もなければ、そろそろ閉じさせていただきますが、いかがでしょうか。

(意見なし)

服部部会長

ありがとうございます。じゃあ、事務局のほうに一旦お返ししたいと思います。

事務局

服部部会長、ありがとうございました。

それでは、次第の最後ですが、その他でございます。

次回の日程ということで、担当者から説明させていただきます。

(事務局説明)

事務局

今ありましたが、次回10月29日ということで、改めて文書のほうで正式に依頼させていただきたいというふうに思っていますので、よろしくお願ひします。

それでは、これをもちまして第7回観光戦略会議専門部会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

また今後とも引き続きお願ひします。